

## トランポリン審判本部からの情報 2022年10月版

2022-2024 FIG 採点規則が運用開始されて以来、国内外でこれまで多くの大会が開催されました。これらの大会等で確認された内容等につきまして、審判本部からの情報としてまとめましたのでご確認下さい。

### **1. 2022年版 トランポリン採点規則（日本語版） 修正点および補足説明**

2022年版 トランポリン採点規則（日本語版）につきまして、発行後に判明した変更点や解釈につきまして別紙1に記載しましたのでご確認下さい。

### **2. News Letter No.27 について**

2022年8月にFIGからニュースレターNo.27が発行されました。要点を下記に記します。  
原文は下記をご参照下さい。

[http://www.fig-docs.com/website/newsletters/TRA/2022/TRA\\_NSL\\_27\\_en.pdf](http://www.fig-docs.com/website/newsletters/TRA/2022/TRA_NSL_27_en.pdf)

#### A.- 2022-2024 Code of Points – Questions and Answers (Q&A) (1ページ)

採点規則 2022-2024 について世界中から寄せられた質問に対する TRA TC からの回答となります。  
別紙2にまとめましたのでご確認下さい。

#### B.- 2022-2024 Judges' online tests (11ページ)

オンラインで開催された国際審判試験の結果と、2023年にスイス・ローザンヌで開催予定のアップグレードコースについて。

#### C.- 2024 Olympic Games Qualification Process (12ページ)

2024パリオリンピックの予選システム（原文のリンクはエラーとなります）。

[https://www.gymnastics.sport/publicdir/rules/files/en\\_Olympic%20Qualification%20System%20Paris%202024.pdf](https://www.gymnastics.sport/publicdir/rules/files/en_Olympic%20Qualification%20System%20Paris%202024.pdf)

2022年8月の会議で、TRA-TCはワールドカップ予選イベントのプロセスとランキングを規定し、FIG ECへ提案しました。FIG ECは最終提案をレビューし、承認した後に公表します。従いまして、オリンピック予選対象となる2023年のワールドカップは、11月9日～10日にトルコ・イスタンブールで開催されるEC会議の後に発表される予定です。

#### D.- 2024 Olympic Games Judges' Selection (12 ページ)

2024年オリンピックの審判選考方法について。

#### E.- TRA-D reviewing process (12 ページ)

2025-2028 採点規則に向けたD得点の検討について。背景などは原文をご参照下さい。

#### F.- 2022 WAGC (世界年齢別競技会) (13 ページ)

- 予選から決勝への進出は採点規則に従います。すなわち各グループの1位は決勝進出となります。
- WAGC/ジュニアルールに基づき、予選2は行われません。
- TUMとDMTの決勝は採点規則に従い、決勝1と決勝2が行われます。

#### G.- FIG Calendar (13 ページ)

原文をご参照下さい。

### **3. 試合における採点規則の適応について**

#### (1) 試合実施形式の明記について

採点規則 2022 年度版では、試合形式が予選1、予選2、決勝を行う前提としたルールとなっております。このルールでは、予選1の各グループトップが予選2に進出し、残りが得点順で選出されます。そして予選2の2つのグループのトップ選手と、残り6名が得点順で決勝に選出されます。

各連盟や都道府県協会等が主催する大会におきまして、予選2を行わないとした場合、予選グループ数が多い場合には各グループのトップを選出するルールの適応が困難になります（例えば9グループある場合には8名選出ができません）。

従いまして、大会主催者は試合実施方法を変更していただいても構いませんが、選手が混乱しないよう、予選2実施の有無や、グループトップ選手選出の有無、決勝試技順の決め方（抽選 or 以前の予選下位から）を、大会要項に明記していただくようお願い致します。

#### (2) タイ・ブレイクについて

採点規則 2022 年度版では、シニアルールでのタイ・ブレイク方法が記載されております。トランポリン予選では2本の自由演技のベストスコアに対するブレイク方法となりますが、ジュニアや国体の予

選など 2 本の演技の合計で争う場合は、世界年齢別大会のタイ・ブレイクルールを適応して下さい。

1. 2 本の演技の T 得点合計が高い選手
2. 2 本の演技の H 得点合計が高い選手
3. 2 本の演技の D 得点合計が高い選手
4. 2 本の演技の全ての E 得点合計が高い選手

#### **4. ストラドルバウンスのヌーメリック表記について**

先日開催された TC 会議にて、ストラドルパイクバウンスのヌーメリック表示について“V”（アルファベット“ブイ” 1 字のみ）と表記することになったと連絡がありました。

今後競技カードに記載する際はこの表記をご使用下さい。

記載内容についてご不明な点がございましたら、トランポリン審判本部宛にお問い合わせ下さい。

[trampolinejudge@yahoo.co.jp](mailto:trampolinejudge@yahoo.co.jp)

以上

別紙 1

2022年版 トランポリン採点規則（日本語版）修正点および補足説明

ページ	項目	内容
7	1.1	トランポリン予選1の2本の自由演技について。 選手/ペアが2本目の自由演技を行わない決断をした場合は、その演技を0点とする。
7,21,31	1.1	Q2の「全出場者」について 「全出場者」は登録時点の人数を指します。例えば登録時点で33名いる場合は、棄権が2名出たとしてもQ2は実施されます（Q1上位16名）。
8	1.2	1.2.4および1.2.6に記載のあるとおり、各国で予選2および決勝に進出できる人数・ペア数には制限があります。 予選1において、ある選手がグループトップだが国として4番目の得点だった場合、その選手は予選2に進むことができません。この場合、該当グループの2位選手を繰り上げることはしません。 つまり、国として4番目の選手がグループ1位だった場合はそのグループでは順位割り当ては行われず、そのグループの選手は得点（全体順位）によって予選2に進めるかどうかが決まります。 予選2から決勝への進出、および年齢別大会の予選から決勝への進出も同様です。
15	17.4	誤) 選手が10種目以上の演技を行った場合、本規則20.2.2により1.0点の減点が各E審判員により実施される。 正) 選手が <b>10種目を超えて</b> 演技を行った場合、 <b>本規則21.2.3</b> により1.0点の減点が各E審判員により実施される。
29,40	18.2	採点方法（タンプリング・ダブルミニ） CoP2022-2024では記載がありませんでしたが、E最大得点は下記の計算となります。 タンプリング：有効本数に2を加算し、2倍する（最大20点）。 ダブルミニ：有効本数に8を加算し、2倍する（最大20点）。 ※0種目の場合は0点
69	Appx.M	変更前) T得点の評価については、1/1000 秒単位で評価を行い、5/1000 秒単位に丸める。 変更後) T得点の評価については、1/1000 秒単位で評価を行い、 <b>1/100 秒単位に丸める</b> 。 ※16ページ 18.2.1の説明、および69ページに記載された例が正しいです。
35	6.1,6.2	DMT「白いシューズもしくは白色の足部を覆う靴下の着用が可能である」と記載されているが、News Letter No.27 のとおり「着用が必須である」に訂正。
83	TR4.4.3	団体決勝のタイ・ブレイクについて。 決勝でポイントが同点だった場合もこの内容に従う。すなわち、同点の国における3名の(1)T得点の合計、(2)H得点の合計、(3)D得点の合計、(4)全E得点の合計の順で比較する。

## 別紙 2

## News Letter No.27 Q&amp;A

赤字は特に重要な内容

No	質問内容	TRA-TC回答
#1	世界年齢別競技会に関する提案	今後の検討（まだ何も決まっていません）
#2	TUM 15：種目繰り返しに関する質問。	採点規則2022（和訳版）記載のとおり。
#3	TRA 1.2.2：種目繰り返しとベストスコアについて	TRAとSYNはベストスコア方式
#4	ジュニア区分の予選タイ・ブレイクについて	ジュニアおよび世界年齢別競技会(16歳以下)では、WAGC規則に従ってタイブレイクを行う。 1. 2本のT得点の合計が高い方 2. 2本のH得点の合計が高い方 3. 2本のD得点の合計が高い方 4. 2本の全E得点の合計が高い方 決勝は通常どおりのタイ・ブレイクを行う。
#5-1	TRA 1.2.2：種目繰り返しとベストスコアについて	TRAとSYNはベストスコア方式。Q1の2本の演技で種目の繰り返し可能。
#5-2	TRA 12.2：ウォームアップや演技開始のタイミングについて	45秒の計測は前の選手がトランポリンを降りたところから開始する。審判がタイミングをコントロールし、器具に不具合などが発生したかどうかの判断を行う。  試合ではCJPが演技開始の合図を送る。選手はStop/Goの電子サイン、またはCJPの合図を見なければいけない。CJPは選手とのアイコンタクトを待つ必要はない。
#5-3	TRA 13.3：「シンクロナイズド競技においては2名の選手が演技を開始した時点で演技開始とする。」とあるが、これは片方の選手が先に演技開始してもペナルティ無しで再開できることを意味するのでしょうか？	その通りです。ただし時間計測は続きます。
#5-4	TRA 16.1.9.1：シンクロナイズドの時間計測について	1/1000で計測して、1/100に四捨五入されます。ソフトウェアに変更はありません。
#5-5	TRA 15：第1演技の種目繰り返しのペナルティ2.0について	世界年齢別競技会(16歳以下)とジュニアでは、種目繰り返しのペナルティ2.0を適応する。今後、採点規則15,22に明記する。
#5-6	TRA 17.4,TUM 17.5：10/8種目を超える演技時のペナルティについて	(審判本部注) TCの説明は現状と異なる。通常の着地減点は取る必要は無いが、11/9種目の場合は各E審判が1.0の着地減点とする。
#5-7	TUM 18.1.7：女子 D得点ボーナスは、Dボーナスという欄はなく、単純にD得点に足せばよいか？	その通り。
#5-8	TUM 20.10：ここにランディングペナルティ(17.3)も追加されるべきでは？	その通り（CoP第2版、および採点規則2022（和訳版）では追加済み）
#5-9	DMT 15.1：種目の繰り返しについて	採点規則2022（和訳版）記載のとおり
#5-10	DMT 18.2：不完全種目（1種目有効）の得点について言及されていないが、以前のように7点満点ではなく9点満点になったということでしょうか？	その通り。
#5-11	Part2 6-服装：髪の毛の扱いについて。ポニーテールなどがタンプリングトラックに触れたり、トランポリンベッド外に触れたら中断となるのか？	その通り。髪の毛は体の一部とみなす。
#5-12	Part2 TRA 18.1（採点規則46ページ）：1/4捻りしかない時でも1/2捻りの価値を与えるのか？	その通り。採点規則2022（和訳版）記載のとおり。
#5-13	Part2 TRA 21.2.2：着地減点は中断時には取られないとあるが、種目数を超えた場合も同様であることを明記すべき。	着地減点は完全な演技（各競技で要求される種目数）を行った場合のみ行われます。 (審判本部注：11種目以上の場合には着地減点 1.0)
#5-14	Part2 TRA 21.2.2：静止せずに振り向いたりベッドから離れた場合の減点0.2が、その下のリストに書かれていない。	次のCoPで着地減点の表記について見直す。
#5-15	Part2 TUM 21.2.3：追加のテンポ（非宙返り）を行った場合、ステップによる着地減点は適応されないことを明記した方が良いのでは？	着地減点は完全な演技を行った場合にのみ適応されます。 (審判本部注：9種目以上の場合には着地減点 1.0)
#5-16	足を大きく開いて着地した場合の減点がTUM/DMTでは0.1なのにTRAが0.2なのはなぜか？	TUM/DMTに比べて、TRAではより大きな過失とみなされるため。

#5-17	静止する前に審判の方を向いた場合の減点が、TUMは0.3、DMTは0.1、TRAが0.2なのはなぜか？	DMTは0.3に修正済み。TRAはアウトバウンスを除く着地に関する減点が0.2までのため。
#5-18	Appendix.M 跳躍時間点は1/1000と1/100のどちらが正しいか？	1/1000で計測して、1/100に四捨五入する。
#6	#5-5と同じ	
#7-1	#3と同じ	
#7-2	#5-1と同じ	
#7-3	オープニングの減点について。開きなし、キープが不完全、90°までに捻り終わらない場合でも0.3を超える減点はしないのか？	その通り
#7-4	ひねり終わりについて。完璧な演技をしても捻り終わりが遅い場合は0.1減点となるか？	その通り
#7-5	#5-5と同じ	
#8	ドイツ語版に関する記載ミスの指摘	
#9-1	#5-6と同じ	
#9-2	TRA 21.2.2.3/21.2.2.5：10種目目の後にフレームパッドにつま先かかかかかとが触れてからベッドに着地した場合、減点は0.5/1.0のどちらか？	もし選手がベッドに着地してからフレームやパッドに触れたら0.5。 もし選手がフレームやパッドに着地した場合は1.0。 明らかなミスのみ減点される。
#9-3	TRA 21.2.2.2~4：「着地の後」は10種目後の事を指すか？それともアウトバウンス後か？	アウトバウンスは着地の一部と考えられる。
#9-4	TRA 21.2.2.1：選手が肩幅くらいで着地した際に、足を閉じるために動かしたら0.1の減点となるか？	その通り
#9-5	TUMとDMTで、着地後に反動で背中をついた際に、TUMではクラッシュと判断され、DMTでは着地後の倒れ込みと判断される。この重要な判断を各審判が行えるように、違いを説明して欲しい。	DMTではオープニングフェーズがあり、後方に転がる前に一歩ステップしていたため。（審判本部注：サンプルビデオか何かを見て言っている？）
#9-6	アウトバウンス後の着地時に前方へ反動でとんだ場合の許容値を示してほしい。	高さや距離ではなく、コントロールされていたかどうかで評価する。
#9-7	TUMでフルツイストは繰り返し可能な種目になったが、年齢別競技会の予選で2パスともフルツイストで終了しても良いか？（審判本部注：D得点が与えられるかという質問の意図とかわかります）	その通り
#10	欠番	
#11-1	DMT：靴下など履かずに跳んでも良いのか？	DMTでは白い靴下・シューズの着用が必須です。TUMからDMTへのコピーミスです。
#11-2	スペイン語版に関する記載ミスの指摘	
#12-1	クラッシュ/着地と判断するための基準を明確に示してほしい。大会ごとに基準が一致していないように思える。	現在のルールは数サイクル前に出来たが、明確な基準を定めるためのさらなる研究が必要。TCがそれぞれの競技会で同一の基準が適応されるように努めていく。
#12-2	#11-1と同じ	
#12-3	TUMで、選手が8種目にバク転を行ってトラックに着地した場合どのように判断すべきか？ 8種目目が非宙返りの場合の2.0ペナルティ？ トラックに着地の0.4ペナルティも同様に取る？	このケースでは両方のペナルティが適応される（2.0+0.4=2.4）。
#12-3	TUMで、選手がカウントミスで8種目にバク転を行って、9種目で着地した場合、どのように判断すべきか？ 最初の8種目でD/E得点を判断し、E審判がランディング1.0減点を行うか？もし8種目目が非宙返りの場合は2.0のペナルティを取り、さらにトラック着地の0.4のペナルティを取るのか？	E審判の1.0減点のみで良い。
#12-4	得点の計算方法についての質問	採点規則に記載どおりの内容
#12-5	#5-5と同じ	
#12-6	男子選手は肌に密着したコンプレッションウェアを着ることができるか？	肌に密着したものであれば着用可能。
#12-7	TRA：着地1.0/0.5の判断について。	全体重が手にかかるような状況であれば、1.0減点となる。 それ以外のケースで、体の一部が器具の表面に触れるケースでは0.5減点となる。

#12-8	TUM : 8種目目にタンブリングトラックに着地して (ペナルティ0.4) 、その後フロアに出た場合は、追加で0.2のペナルティとなるか？	その通り
#12-9	TUM : ランディングエリアに着地後 (ペナルティ1.0) 、フロアに出た場合は0.2のペナルティとなるのか？	CJPはランディングゾーン外の着地でペナルティ1.0とする。 そして (各E審判は) ランディングの減点として1.0とする。(ランディングエリアやトラック外に出た、フロアに体の一部が触れたなども同様) CJPによる0.2のペナルティは与えられない。既にこの過失はE審判のランディングでカバーされている。
#12-10	DMT : Zone Bから直接ランディングエリア外に出た場合、Zone Cに触れてなくても0.2のペナルティとなるか？	CJPはZone Bペナルティ0.6を与える。 各E審判は21.2.2.5に従って1.0の着地減点を与える。 CJPによる0.2のペナルティは与えられない。既にこの過失はE審判のランディングでカバーされている。
#12-11	#5-10と同様	
#12-12	21.2.2.5の「転倒を避けるための追加の宙返り」は21.2.3でカバーされているので削除されるべきでは？	これらはシチュエーションが異なる。ただ結果は一緒なので、CJPとE審判は両方のルールを同時に適応しないことが重要。 (審判本部注：今は両方とも着地減点 1.0として扱う)
#12-13	スコアは四捨五入？ 切り捨て？	FIG Apparatus CommissionがCoPを改訂し、解決策を提示する予定です。 (審判本部注：質問と回答が異なる？)